

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ④ 観光・まちづくり分野

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
千年の草原の継承と創造的活用総合特区 (阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町)	3.7	3.8 進捗度 ・草原管理面積 ・野焼き再開牧野数 149% ・あか牛肉料理認定店 66% 等	3.6 地域独自の取組 ・ASO環境共生基金事業 ・入湯税込観光活用事業 等	3.6	<p>・災害とコロナ禍という観光分野には厳しい状況が続く中、取組を継続されている点を評価したい。令和5年度から上向きとなる指標が増えることを期待したい。</p> <p>・阿蘇草原を守り抜く工夫として、外国人による野焼きボランティア育成研修や、旅行者による「草原の守り人」など、参加体験型のサスティナブル観光に資する取組も行われており、まさにこれからの時代に則したエコツーリズム、アドベンチャーツーリズムなど、自然コンテンツが高付加価値商品につながる可能性を秘めている。</p> <p>・阿蘇草原を保全していくために必要な資金と人材を持続的に確保するためには、阿蘇カルデラツーリズムというコンセプトに沿った具体的で創造的な取組が必要なのではないか。</p> <p>・草原の保全を始め阿蘇ならではの循環型の営農形態の追求は、SDGsの観点からもそのこと自体がコンテンツとなる可能性がある。地域への来訪者については総数としての把握だけではなく、「何を目的に、どういった活動をしにきているのか」というセグメントを明確にし、その中でもどういったターゲットを狙っていくのか、について戦略を明確にしていくことも検討してはどうか。</p> <p>・関係人口、交流人口を拡大する全国各地のユニークな取組を参考に、観光の切り口以外も参考とした担い手獲得の糸口を模索することも必要ではないか。</p>